

# 胃カメラ 画像診断

## 苦痛なく楽に

平成29年2月中旬、北見市の胃がん検診の検診結果の通知を受け取った。そこには「精密検査」が必要とあり、早速、北見赤十字病院の消化器内科外来の診察を受け、後日、胃カメラの検査を受けることになった。

### 事前処置

3月10日、朝食を取らずに朝一番に同院の「内視鏡センター」を訪れた。すでに3人ほどの方が待合スペースにおり、直ぐに順番がきて受付で生年月日の本人確認を受け、小さな紙コップの胃を洗浄するシロップ薬を飲み干した。処置室に案内され、担当の看護師が鎮静剤を注入する注射器を右腕に仮止め

し、「今日一日車の運転は出来ない」と云われた後、待合スペースで待っていた。

### カメラ本番

内視鏡検査室。喉に麻酔薬をスプレーされ、カメラに向かい診療ベッドに横になるとベッドが上昇し、血圧測定が行われ、先に装着した注射器に鎮静剤の接続注入です。担当の看護師が



「注入口を連結します」と声を出すとクルーの看護師が「はい」と答え、「バルブを開けます」「ハイ」「注入が始まりました」「ハイ」「注入が終わりました」「ハイ」「バルブを閉めます」「ハイ」と続きます。「まるで駅の列車の指先確認のようだ。マウスピースを口に含み、「鼻から息を吸って、口からゆっくり息を吐いて下さい」と声をかけられ、ゆっくり呼吸する。意識が少しもうろうとしてきます、胃カメラが挿入されていると思われ、異物が身体に入る感覚はない。時間

経過の感覚があまりなく、身を任せて居るうち、検査は終わり、診療ベッドを離れる時少し眠い感じがした。看護師に導かれ、安静休憩ベッドに横になり、2度ほど目を醒ます。「大丈夫ですか」と看護師に声をかけられ、血圧を測定後、安静休憩ベッドを離れ、待合スペースでぼんやりしていた。



ぐに理解をすることが出来た。会計で精算をして、徒歩で家路についたのは午前10時を少し回った頃と思う。

### あとがき

過去に南館の頃、胃カメラ検査を受診したことがある。身体に異物が入る不快感があり苦しく、時間も随分掛かった記憶がある。今回はとうとうとしているうちに検査が終わわり、私には解らなかつたが、きっと、医師のカメラ操作もスムーズであったものと思っております。鎮静剤の注射の時、スタッフ同士でそのプロセスを一つずつ確認し、検査を受ける人を観察しながらの対応は安心出来るものであった。センターのプロセスは「かいぜん」が積み重なり、内視鏡センターのソフトは新病院の開院を契機

に進化していることを実感した。デミング賞メダル



### 編集後記

1面の当初の版は役員一覽でした。改正個人情報保護法全面施工日が平成29年5月30日との情報を確認し、急遽、タマネギ列車に入れ替え。誌面の違和感、ご容赦の程を。講演会の要旨、紙面の制限で十分に記述出来ず、申し訳なく思っています。PETの情報は当方のHP「http://it.doo.jp/03sien.html」を参照下さい。4面、その後の関連情報です。

平成17年11月、デミング賞を授与する団体・財団法人日本科学技術連盟(日科技連)が設立した「医療の質奨励賞」の第1回受賞に、済生会横浜市南病院(横浜市港南区、500床)が選ばれたとのこと。(逢坂)

(逢坂信治 記)